

## 戦 評 用 紙

インターハイ県予選		平成26年6月22日						
会場 和光市総合体育館 (Kコート第2試合)								
対戦	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">慶應義塾志木高校</td> <td style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="text-align: center;">昌平高校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">65</td> <td style="vertical-align: middle;">8-18 8-13 16-15 26-12 7-8</td> <td style="text-align: center;">66</td> </tr> </table>	慶應義塾志木高校	}	昌平高校	65	8-18 8-13 16-15 26-12 7-8	66	
慶應義塾志木高校	}	昌平高校						
65	8-18 8-13 16-15 26-12 7-8	66						
決勝リーグ1勝1敗の昌平高校と2敗の慶應義塾志木高校の対戦は、両チームともにハーフコートマンツーマンで試合が始まる。								
1P、先制点は昌平、#6がドライブシュートを決める。慶應義塾志木は昌平の高さを意識してなかなかシュートが入らない。しかし、0対8とされたところでディフェンスラインを上げ、ボールを奪うと#5のドライブや#7の3Pシュートで得点する。一方の昌平は、#6の3Pシュート、#15のインサイドプレーなどで確実に攻め、8対18で1P終了。								
2P、約4分間ノーゴールの中、昌平は交代した#8がすぐさまジャンプシュートを決める。一方、慶應義塾志木も#8がリバウンドシュートを決めるが、お互いに得点が伸びない。慶應義塾志木はタイムアウト後1-2-1-1ゾーンプレスから3-2ゾーンに変えるが、昌平も冷静に対応、#7の3Pシュートや#5のシュートで追加点を上げ、16対31で前半を終える。								
3P、15点差を詰めたい慶應義塾志木はオールコートマンツーマンプレスを仕掛け、#4のシュート、#7の3Pシュートと連続ゴールを奪う。一方の昌平も#6の3連続ゴールや#7の3Pシュートで一進一退となりこのピリオドは15対16とし、32対46で最終ピリオドへ。								
4P、慶應義塾志木のオールコートマンツーマンプレスが徐々に効いてくると、昌平のシュートが落ち始める。慶應義塾志木はリバウンドを粘り、#9の3Pシュートや#5のシュート、#7の3Pシュートで追い上げ、残り4分で54対56と2点差に迫る。昌平も#6がリバウンドシュートを決めるが、慶應義塾志木も残り34秒、#7のドライブでついに同点、延長戦へもつれ込む。								
延長戦、慶應義塾志木は#8のジャンプシュート、#5のドライブと3連続ゴールで64対58と6点リードを奪う。しかし、昌平も#6と#4がシュートを決め、試合の行方はわからなくなる。残り1.5秒、昌平は#6のリバウンドシュートと#15のゴール下シュートで65対66と逆転に成功し、慶應義塾志木の猛追を振り切って勝利した。								

( 記録者 大宮史子 )